道標（みちしるべ）第1391号

令和２年３月11日
校長　稲垣　達也

保護者の皆様　　令和２年３月１１日

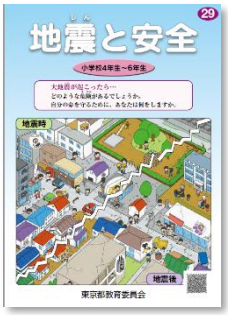
追加の連絡事項について ⑩

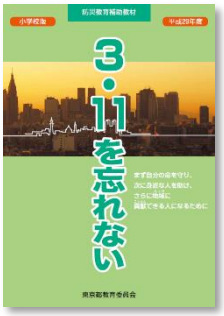
１　被災地に心を寄せ、自分を見つめる　「３．１１を忘れない」

平成23 年3 月11 日午後2 時46 分、東北地方をおそった未曾有の大地震と巨大な津波、原子力発電所の事故は、我が国に甚大な被害をもたらしました。かけがえのない命、美しい故郷が失われ、過去に類を見ない深刻な状況は、今も続いています。

「３．１１を忘わすれない」という言葉は、被災地に心を寄せ続けることと、私たちも、その時に備え、自分の命を守り、次に身近な人を助け、更に地域に貢献できる人となるよう、東日本大震災の記憶を忘れてはならないという意味です。

学校では、防災教育副読本「地震と安全」や防災ノート「東京防災」とともに、防災教育補助教材「３．１１を忘わすれない」(高学年) を活用して、継続的に学んでいるところです。臨時休校中の今、御家庭におきましても、東京都が全世帯に配布した防災ブック「東京防災」等も有効に活用し、指導していただければ幸いです。





東京都教育委員会「安全教育・防災教育」のホームページにも掲載されています。
https://www.kyoiku.metro.tokyo.lg.jp/school/study_material/safety/
防災ノート ～災害と安全～ 防災教育ポータル
https://www.kyoiku.metro.tokyo.lg.jp/school/study_material/safety/bosainote.html

２　あの日の記憶

９年前、あの時、私は隣の学校で会議に参加していました。小学校長になり、初めての卒業式に向け意気揚々と、大過なく１年間を終えそうだなと安堵していた頃です。

武蔵野台地に建つ学校の揺れはさほど大きくなく、テレビの映像を見ながら「まさか！」と信じられない思いでしたが、急遽、自校に戻ろうと歩き始めました。途中、かなり大きな余震が発生し、街が揺れました。副校長と連絡を取り、集団下校の段取りを指示し、自校に着いた時には、全児童が教員らと一緒に学校を出た後でした。

屋上のプールの水があふれ出ていましたが、校舎内外の破損も大きくなく、ホッとしたのもつかの間、しばらくすると何人かの児童が学校に戻ってきました。「家に入れない。母さんが帰って来ない。」等々と言うのです。「まさか！」「まさか！」です。幸いなことに、その日の夜までには全児童の安全を確認し、私も帰宅することができました。

しかし、震源から遠く離れた東京で、交通網がマヒし、保護者が帰宅できないという事態は、まさに想定外でした。小さな子供たちが保護者に会えず、何度も余震が続く中、道路や家の前で不安に震えていた姿を想像すると、今でも、子供たちに取り返しのつかないこと（集団下校）をしてしまったという後悔が脳裏を離れません。

『震度５弱以上で保護者に引き渡す』という大原則は、この震災を踏まえてできたものです。想定外という甘い考えが大惨事を招きます。

新型コロナウイルス感染症への対応も同じです。安全は全てに優先します。臨時休校の状況は、子供たちにはとって残念な日々です。不安と悲しさが募ります。ですが、「命」を守ることが最優先。命を守るために、安心よりも安全を優先した措置です。その判断が正解か否か等と議論してる余地はありません。今、私たちができることをやるだけです。